

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨタカローラ埼玉(株)本社 新	階数	地上2F
建設地	埼玉県上尾市	構造	S造
用途地域	準住居地域、第一種低層住居専用地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年11月5日
敷地面積	7,122 m ²	作成者	(株)島村工業一級建築士事務所
建築面積	1,650 m ²	確認日	2020年11月5日
延床面積	2,973 m ²	確認者	(株)島村工業一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
周辺住宅地への影響を考慮し、建物配置を計画し、周辺との調和のとれた色彩を採用している。		
Q1 室内環境 吸音効果の高い内装材を取り入れ、室内の吸音率を高めている。設計照度を700lxとし、空間の明るさ感を確保している。喫煙室は非喫煙者が煙に曝されないよう十分な対策を実施し空気質環境にも配慮している。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースの確保、自動販売機を設置するなど心理性・快適性に配慮している。補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。夜間照明の設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓、省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を87%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される